Architecture in Time 2

「強い構造」を再利用し、「弱い構造」で新たな空間を創造する

西洋建築史系スタジオ課題

本スタジオ « Architecture in Time »は、西洋建築史のリサーチをベースとして、それを「知の技術」として、設計に展開させることを狙いとしている。「時間のなかの建築」として着目するのは、建築の転生（アフターライフ）だ。建築はひとつの「作品」として完成した後も長い時間生き続ける。社会状況が建設当初から大きく変化したとき、新たな社会の要請にあわせて建築を変貌させることも、重要な建築行為である。

西洋の古い建築を調査すると、そうした転生（アフターライフ）にひとつの傾向が見えてくる。「強い構造」ともいえる城壁や巨大建造物などが当初の役割を失ったとき、それは再利用可能な構造体と化すのである。そこには住宅のような「弱い構造」が付着して、そこに新たな建築や街並みが生まれる。

本スタジオ課題では、こうした事例研究に基づき、現代の日本で再利用可能な「強い構造」を発見し、そこに「弱い構造」で軽やかに寄生するようにして、新しい建築空間を生み出そうとするものである。

※なお最終成果物を、2016年度日本建築学会設計競技「課題:残余空間に発見する建築」（締切6月24日）に応募することも、あわせて推奨する。

スタジオの進め方：

前半（中間講評まで）

- ▶ヨーロッパの歴史的な事例研究
- ▶日本国内での敷地選定＋設計案

後半（中間講評以降）

- ▶設計をすすめる

スタジオ初回ガイダンス：

4月14日（木）14:00から加藤研（306）にて

エスキス：

毎週火曜日14:00から加藤研（306）にて

木曜に特別レクチャーを開催する場合がある

履修条件：

学部生のみ

指導メンバー：

加藤耕一＋泉勇佑（TA）＋小見山陽介

構造アドバイザー：杉本訓祥（横浜国大准教授）

城壁に寄生する住宅群（フランス）